

第5章 各教科

第1節 国 語

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

国語科の目標を踏まえて作成する。(解 P11)

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 指導計画作成の一般的な手順

指導計画の作成に当たっては、各学校の実態に即した手順を考えることが大切である。ここでは、一般的な事前の準備及び作成の手順を示す。

- 1 指導計画作成の基本方針を明らかにし、組織、日程を決める。
- 2 指導計画作成のための事前の研究や調査をする。〔全国学力・学習状況調査〕〔埼玉県学力・学習状況調査〕などの調査結果を踏まえること。〕
- 3 指導計画作成の基本となる事項を決める。
- 4 学習指導要領の国語科の目標及び内容、埼玉県教育委員会「指導の重点・努力点」の内容、各学年の実態や生徒の発達の段階等を踏まえ、学校としての重点指導事項、各学年における重点指導事項を決定し、指導の系統表を作成する。
- 5 各領域の配当時数や内容配分に留意し、教科書との関連を図りながら、単元の数、種類、指導時数を決める。
- 6 単元の目標や指導の重点、既習事項との関連や評価規準を明確にし、適切な話題・題材の選定、効果的な言語活動の組織化などに配慮した上で単元を構成する。

3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

(1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点 (解 P140)

個々の生徒によって、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫すること。その際、国語科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、生徒の学習負担や心理面にも配慮する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点 (解 P136)

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。

これまでの実践を踏まえ、生徒や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要である。

(3) 「教科等横断的」な視点 (解 P139)

全ての教科等における学習の基盤となる資質・能力である言語能力の育成に向けて、国語科が中心的な役割を担いながら、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る。

指導計画の作成に当たっては、他教科等の内容の系統性や関連性を考慮する。例えば、国語科の学習内容が外国語科等の学習に結び付くよう指導の時期を工夫すること、関連のある学習内容や言語活動を取り上げた単元の設定を工夫することなどが考えられる。

(4) 「社会に開かれた教育課程」の視点 (解 P2)

必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていく、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが重要である。

地域や学校及び生徒の実態を国語科の立場から把握し、学校の教育目標との関連を図るようにする。

(5) 「道徳教育の充実」の視点（解 P141）

学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、国語科と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う。また、国語科の年間指導計画の作成などに際して、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにする。

(6) 各学年の内容の弾力的な指導（解 P137）

小学校における指導内容を考慮した上で、生徒の発達の段階や学習の状況に応じて、学習のねらいや生徒の興味・関心を考えながら計画を立てる。その際、各学年の内容に基づきながらも、その前の学年において初歩的な形で取り上げたり、後の学年において程度を高めて取り上げたりして指導することも考えられる。また、生徒の言語能力が螺旋的に高まるよう、目標の系統性を保ちながら柔軟かつ弾力的な運用を図り、系統化した効果的な指導がなされるよう計画を立てていくようにする。

(7) 学校図書館などの活用（解 P145）

学校図書館は、生徒の読書活動や生徒への読書指導の場である「読書センター」、生徒の学習活動を支援したり授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」、生徒や教職員の情報ニーズに対応したり生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有している。本などの種類や配置、探し方など、小学校で学習した内容を踏まえながら、学校図書館などを利用する目的を明確にした上で計画的に利用し、これらの機能の活用を図る。

(8) 情報機器の活用（解 P144）

情報化社会の進展を見据え、情報収集や情報発信の手段として、インターネットや電子辞書等の活用、コンピュータによる発表資料の作成やプロジェクターによる提示など、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を設ける。

(9) 「知識及び技能」に関する配慮事項（解 P138）

「知識及び技能」に示す事項は「思考力、判断力、表現力等」に示す事項の指導を通して行うことを基本とし、必要に応じて、特定の事項を取り上げて繰り返し指導したり、まとめて単元化して扱ったりすることもできる。これは、言葉の特徴やきまりなどについて、生徒の興味・関心や学習の必要に応じ、ある程度まとまった「知識及び技能」を習得させるような指導もできることを示している。

指導に当たっては、生徒が、日常の言語活動の中にある言葉の特徴やきまりなどに気付くことや、学習したことを日常の話したり聞いたり書いたり読んだりする場面に生かすことを意識しながら学習できるようにする。

(10) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、書写に関する配慮事項（解 P138、P139、P143）

「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「知識及び技能」の書写の指導においては、指導に相当する授業時数を下回らないように注意すること。

項目	学年	第1学年	第2学年	第3学年
A 話すこと・聞くこと		年間15～25単位時間		年間10～20単位時間
B 書くこと		年間30～40単位時間		年間20～30単位時間
書写		年間20単位時間程度		年間10単位時間程度

また、「A話すこと・聞くこと」では、音声言語のための教材を活用し、指導の効果を高める。さらに、「B書くこと」では、実際に文章を書く活動を重視する。

(11) 「読書」及び「C読むこと」に関する配慮事項（解 P139）

読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。「知識及び技能」の「読書」に関する事項及び「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」の指導を通して、生徒の読書意欲を高め、生徒が様々な文章を読んで、自分の表現に役立てられるようになるよう配慮する。

また、国語科における読書の指導は、国語科以外の、学校の教育活動全体における読書の指導との密接な連携を図っていく必要がある。他教科等における読書の指導や学校図書館における指導、全校一斉の読書活動などとの関連を考慮した指導計画を作成する。

(12) 教材についての配慮事項（解 P146）

教科及び各学年の目標、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成をねらいとして、教材を選定する。生徒の発達の段階に即して適切な話題や題材、話や文章の種類などを調和的に選定し、特に、「思考力、判断力、表現力等」においては、各領域の指導が適切に行われるよう、年間を通してバランスよく教材を配当する。

第2 指導計画作成のための資料

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本としている。そのため、生徒の実態に応じ、各領域の指導事項及び言語活動例を関連付けながら、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図っていく。実際の指導に当たっては、その趣旨を踏まえて指導の工夫をする必要がある。

1 目標及び学年の目標の系統表

(1) 中学校の国語科の目標

目 標	解 説
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○「正確に理解」する資質・能力と、「適切に表現」する資質・能力とは、連続的かつ同時に機能するものである。 ○「言葉による見方・考え方を働かせ」とは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。 ○言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。
(1) <u>社会生活（日常生活）</u> に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○「知識及び技能」に関する目標であり、日常生活から社会生活へと活動の場を広げる中学生が、社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使うことができるようにすることを示している。
(2) <u>社会生活（日常生活）</u> における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○「思考力、判断力、表現力等」に関する目標であり、社会生活における人との関わりの中で、思いや考えを伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことを示している。 ○「伝え合う力を高め」とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることである。 ○「思考力や想像力を養う」とは、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養うことである。未知の状況にも対応できる力を育成することが重要となる。
(3) 言葉がもつ <u>価値（よさ）</u> を認識するとともに、言語感覚を <u>豊かにし（養い）</u> 、 <u>我が国の言語文化に関わり（国語の大切さを自覚し）</u> 、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びに向かう力、人間性等」に関する目標であり、言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことを示している。 ○「言語感覚」とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜などについての感覚のことである。小学校で養われた言語感覚を中学校で豊かにすることは、一人一人の生徒の言語活動を充実させ、自分なりのもの見方や考え方を形成することに役立つ。 ○「我が国の言語文化に関わ」とは、文化としての言語、文化的な言語生活、多様な言語芸術や芸能などに関わることである。 ○「国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」ことを求めているのは、我が国の歴史の中で育まれてきた国語が、人間としての知的な活動や文化的な活動の中核をなし、一人一人の自己形成、社会生活の向上、文化の創造と継承などに欠かせないからである。

※小学校と中学校の目標の異なる部分を太字・下線で示した。

※括弧書きは小学校の目標である。

(2) 学年の目標の系統表

	小学校第5学年 及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
知識及び技能	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。	(2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 【知識及び技能】の内容の系統表

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ※「音読, 朗読」については小学校のみ示されている

	小学校第5学年 及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
言葉の働き	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。		ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。	
話し言葉と書き言葉	イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。	ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。	イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。	

漢字	エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	イ 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	ア 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。
語彙	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。	ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
文や文章	カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。	エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。	オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。	ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。
言葉遣い	キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。		カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。	エ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。
表現の技法	ク 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。	オ 比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。		

(2) 情報の扱い方に関する事項

	小学校第5学年 及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
情報と情報との関係	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。	ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。	ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。
情報の整理	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。	ア 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。	イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。	イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。

(3) 我が国の言語文化に関する事項

	小学校第5学年 及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
伝統的な言語文化	<p>ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。</p> <p>イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりするを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。</p>	<p>ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。</p> <p>イ 古典には様々な種類の作品があることを知ることに。</p>	<p>ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。</p> <p>イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知らぬこと。</p>	<p>ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。</p> <p>イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。</p>
言葉の由来や変化	<p>ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p>	<p>ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。</p>		<p>ウ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解すること。</p>
書写	<p>エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。</p> <p>(ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く早さを意識して書くこと。</p> <p>(イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p> <p>(ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特長を生かして書くこと。</p>	<p>エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。</p> <p>(ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。</p> <p>(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。</p>	<p>ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。</p> <p>(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。</p> <p>(イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。</p>	<p>エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。</p> <p>(ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。</p>
読書	<p>オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。</p>	<p>オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。</p>	<p>エ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。</p>	<p>オ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。</p>

3 【思考力、判断力、表現力等】の内容の系統表

年間指導計画の作成においては、〔知識及び技能〕に加え、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容（解 P154～159）を確認の上、線を引くなどして学年ごとの違いを明確にする必要がある。前後の学年の目標や指導事項に留意して各学年の指導を工夫し、基礎・基本の確実な定着が図れるように配慮することが大切である。

(例) B 書くこと

	小学校第5学年 及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
題材の設定、 内容の検討、 情報の収集	ア 目的や意図に応じて、 <u>感じたことや考えたこと</u> などから書くことを選び、集めた材料を <u>分類したり関係付けたりして</u> 、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、 <u>日常生活</u> の中から題材を決め、集めた材料を <u>整理し</u> 、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、 <u>社会生活</u> の中から題材を決め、 <u>多様な方法</u> で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、 <u>社会生活</u> の中から題材を決め、集めた材料の <u>客観性や信頼性を確認し</u> 、伝えたいことを明確にすること。
構成の検討	イ <u>筋道の通った文章となる</u> ように、文章全体の構成や展開を考へること。	イ <u>書く内容の中心が明確になる</u> ように、 <u>段落の役割</u> などを意識して文章の構成や展開を考へること。	イ <u>伝えたいことが分かりやすく伝わる</u> ように、 <u>段落相互の関係</u> などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。	イ <u>文章の種類を選択し</u> 、 <u>多様な読み手を説得できるように論理の展開</u> などを考へて、文章の構成を工夫すること。
考へるの形成、 記述	ウ <u>目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりする</u> など、自分の考へが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ <u>引用したり、図表やグラフ</u> などを用いたりして、自分の考へが伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ <u>根拠を明確にし</u> ながら、自分の考へが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ <u>根拠の適切さを考へて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考へて描写したりする</u> など、自分の考へが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ <u>表現の仕方を考へたり資料を適切に引用したりする</u> など、自分の考へが伝わる文章になるように工夫すること。
推敲	オ <u>文章全体の構成や書き表し方</u> などに着目して、文や文章を整へること。	エ <u>読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方</u> などを確かめて、文章を整へること。	エ <u>読み手の立場に立って、表現の効果</u> などを確かめて、文章を整へること。	エ <u>目的や意図に応じて表現になっているかなど</u> を確かめて、 <u>文章全体</u> を整へること。
共有	カ <u>文章全体の構成や展開が明確になっているかなど</u> 、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	オ <u>根拠の明確さ</u> などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ <u>表現の工夫とその効果</u> などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ <u>論理の展開</u> などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

※学年ごとの違いを太字・下線で示した。

4 各学年の言語活動例

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するためには、単元全体に言語活動を位置付け、言語活動を通して指導事項を指導することが有効である。その際、言語活動そのものが目的にならないように、目標を達成するための手立てとして意図的・計画的に位置付けることが重要である。

※以下に示す「具体的な言語活動例」は、指導の順序性を示すものではない。各学年の実態に応じて適切な言語活動を取り入れ、単元を構成していくことが大切である。

※これらの言語活動は例示であるため、これらの全てを行わなければならないものではなく、これ以外の言語活動を取り上げることも考えられる。

※1 単位時間の指導計画の作成においては、単元全体に位置付けた言語活動を意識する必要がある。

A 話すこと・聞くこと

言語活動例	具体的な言語活動例
<p>第1学年 ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の身の回りの興味ある話題で、あるいは特定のテーマを決めて～分間スピーチをする。 ○まとまった話を聞き、お互いの聞き取りメモを比較する。 ○内容の是非や、根拠の確かさなどを評価しながら聞く。 ○学校行事を終えての感想を伝え合う。 ○施設訪問を終えての体験発表をする。 ○あるテーマについて、身近な人にインタビューした結果を発表する。
<p>第2学年 ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「私のお薦めの1冊」について、ブックトークなどの図書紹介をする。 ○調べた結果や伝えたいことについて、フリップやプレゼンテーションソフト、壁新聞などを活用しプレゼンテーションをする。 ○新聞記事などを基に意見発表をする。
<p>第3学年 ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験の活動報告や修学旅行の見学地などを、ポスターセッション形式で発表する。 ○あるテーマについて、具体的な事例やデータを基に、異なる立場や反対意見を想定しながら、聞き手が納得する提案や主張をする。 ○1年間の学びを、スピーチやプレゼンテーション、座談会などから好きな方法を選択し発表する。
<p>第1学年 イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○場面や状況などを設定した二人組の対話を行う。 ○テーマを決めて、少人数での討議を行う。 ○あるテーマについてパネルディスカッションを行う。
<p>第2学年 イ それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○あるテーマについてディベートを行う。 ○話合いの様子を記録したり録画したりしたものから、ルールや司会・進行の方法などを学ぶ。 ○映像資料から、対談やパネルディスカッション、ディベートなどの行い方、話題の展開の仕方を学ぶ。
<p>第3学年 イ 互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の情報、学校の特色など、取材したことをまとめる編集会議をする。

B 書くこと

言語活動例	具体的な言語活動例
<p>第1学年 ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○調べた結果をわかりやすく伝えるために、図表を用いて説明する文章を書く。(説明文) ○事実が正しく伝わるように、図表を用いて記録した文章を書く。(記録文) ○会議の記録・行動の記録・授業の記録などを、書式を決めて書く。(記録文)
<p>第2学年 ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な問題を解決するため、マッピングにより情報を集め、自分の立場を明確にした文章を書く。(意見文) ○興味のある新聞の投書を読み、それに対する自分の意見を書く。
<p>第3学年 ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○同じテーマ、同じ作者による複数の小説を読み比べ、批評する文章を書く。 ○印象に残っている本の書評を書く。 ○複数の広告を比較し、表現の仕方や効果について批評する文章を書く。
<p>第1学年 イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方を学校行事に招待するため、案内する文章を書く。(案内文) →字形を整え、文字の大きさや配列などに注意して、楷書で書く。【書写】 ○地域の方に学校行事の様子を伝えるため、写真などを入れて報告する文章を書く。(報告文)
<p>第2学年 イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の恩師に、現在の様子を伝える手紙を書く。(手紙文) →目的や必要に応じて、楷書または行書で書く。【書写】 ○興味のある職業についての情報を集め、職業ガイドブックを作る。 ○職場体験でお世話になる事業所に、日程や持ち物などを確認する電子メールを書く。
<p>第3学年 イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験でお世話になった事業所に、お礼の手紙を書く。(手紙文) ○修学旅行の見学地や旅行記などを新聞に書く。 ○地域の情報や学校の特色など、あるテーマについて集めた情報を整理し、レポートやポスター、リーフレットなどに書く。
<p>第1学年 ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の身の回りの興味ある話題や特定のテーマについての随筆を書く。 ○写真や四コマ漫画から物語を創作する。 ○授業で学習した物語の続編を創作し、作品交流会を行う。
<p>第2学年 ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○俳句、短歌、詩、物語を創作し、できあがった作品をもとに作品交流会を行う。 →俳句や短歌などの詩歌について、文字による表現の効果を考えながら色紙などに書く。【書写】

C 読むこと

言語活動例	具体的な言語活動例
<p>第1学年 ア 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。</p> <p>第2学年 ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。</p> <p>第3学年 ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことなどについて討論したり文章にまとめたりする活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や図表を手掛かりにして文章の内容をとらえる。 ○キーワードやキーセンテンスに留意して要旨をまとめる。 ○文章の要約をし、相手や目的に沿った要約ができているかどうかを検討する。 ○文章中に示されている事実と筆者の意見とを関係付けながら読む。 ○複数の文章から、似ているところ、異なるところを見つけて指摘する。 ○同じテーマについて、新聞や雑誌、インターネットなどに掲載されている文章を比較して読み、自分の立場を決め、討論会を行う。
<p>第1学年 イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。</p> <p>第2学年 イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。</p> <p>第3学年 イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小説や随筆について、初読や学習後の感想を交流する。 ○同一作者の違う作品を読み比べ、感想を交流する。 ○登場人物の心情の変化を、心情曲線で表す。 ○表現技法などに注意しながら、詩歌を音読・朗読する。 ○詩歌や小説について、好きな部分や気になる表現を捉え、感想を交流する。 ○複数の場面や描写を相互に結び付け、多様な解釈を出し合う。 ○解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりして、作品の魅力を伝え合う。 ○登場人物の設定の仕方について、その根拠となる部分を文章中から引用して説明する。 ○詩歌に使われている表現技法について、表現の工夫とその効果を評価する。 ○物語の展開の仕方や表現の効果について、根拠となる部分を挙げて批評する。 ○有名な文学作品の書き出しや結びについて、読み比べて評価し合う。
<p>第1学年 ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。</p> <p>第2学年 ウ 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。</p> <p>第3学年 ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○あるテーマについてレポートや新聞にまとめるために、学校図書館にある複数の資料から情報を得て、必要に応じて取捨選択をする。 ○ブックトークやビブリオバトルをするために、資料を集めて互いに紹介し合う。 ○自分の読書記録を振り返り、お互いに紹介し合いながら、自分のこれからの読書について考える。 ○読みたい本を決め、読書会を行う。 ○あるテーマについて、様々な媒体・メディアからその特性を踏まえて情報を集め、内容を比較する。 ○商品の説明資料や取扱説明書などを読み、わかりにくい表現を目的や意図に応じて書き換える。 ○複数の高校のパンフレットを比較しながら読み、必要な情報について考える。

5 年間指導計画例

(1) 第1学年～第3学年の「書くこと」の系統性に視点をあてた国語科年間指導計画の例

※指導事項の内容は学習指導要領を参照				学習指導要領の指導事項														
				第1学年					第2学年					第3学年				
学年	単元名	時数	学習活動	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ
1年 35	わかりやすく説明しよう	6	「近所の〇〇公園」についてマッピングで情報を集めて整理し、友達に伝える文章を書く。	◎	○	○	○	○										
	根拠を明確にして書こう	8	説明的文章の筆者の主張に対する自分の考え（共感、納得、疑問、反論）を具体的な根拠を挙げて書く。	○	◎	○	○	○										
	感じたことを整理して作品の魅力を伝えよう	7	選んだ絵画や彫刻作品について色彩や作者の心情や意図などの観点を考え鑑賞文を書く。	○	○	◎	○	○										
	印象深く思いを伝えよう	8	小学6年生に向けた学校紹介文を書き、構成・表現・語句の使い方などを観点にして推敲する。	○	○	○	◎	○										
	故事成語を使って書こう	6	故事成語と重なる自分の体験について文章にまとめ、友達と読み合い、意見交換する。	○	○	○	○	◎										
2年 35	多様な方法で情報を集めよう	7	興味ある職業について多様な方法で情報を集め、職業ガイドを作り、クラスで紹介し合う。	◇	◇	◇	◇	◇	◎	○	○	○	○					
	反対意見を想定して書こう「和食派と洋食派」	6	立場を決め、根拠を考え、反対の主張の根拠を予想し、わかりやすい構成で、意見文を書く。	◇	◇	◇	◇	◇	○	◎	○	○	○					
	形式を選び工夫して書こう	8	文学作品に描かれた出来事や人物を題材に新聞、紹介文、ポップ等、好きな形式を選んで文章を書く。	◇	◇	◇	◇	◇	○	◎	◎	○	○					
	心を込めてわかりやすく書こう「職場体験礼状」	6	立場、伝えたい事柄、自分の気持ちなどを明確にし、手紙の形式を踏まえて礼状を書き、推敲する。	◇	◇	◇	◇	◇	○	○	○	◎	○					
	人物の特徴を捉えて論じよう	8	「平家物語」「徒然草」など、古典作品の登場人物の特徴を捉え人物像を論じる文章を書き、学級で読み合う。	◇	◇	◇	◇	◇	○	○	◎	○	◎					
3年 25	言葉を選ぼう～知らない言葉	5	年配の人、または、若い人だけが使用している言葉を探し、知らない人にもわかるように説明文を書く。	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◎	○	○	○	○
	編集して伝えよう～形式の選択・構成の工夫	5	「環境問題」についてグループ毎に課題を決めて調べ、構成を工夫したミニ雑誌を作って読み合う。	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	○	◎	○	○	◎
	説得力のある文章（批評文）を書こう	5	地域社会やメディアなどの情報から、関心事を選び、論理の展開や表現方法を工夫した批評文を書く。	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	○	○	◎	○	○
	魅力的な紙面を作ろう～修学旅行アルバムの編集	5	自分がした見聞、感想などを分類して記事にし、段落や構成、見出しなどについて推敲し、冊子にする。	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	○	◎	○	◎	○
	古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう	5	古典の中から自分の心に響いた言葉を引用し、後輩に自分の思いを伝えるメッセージを送り、返事をもらう。	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	○	○	◎	○	◎

ア 題材設定・情報収集・内容検討 イ 構成の検討 ウ 考えの形成・記述 エ 推敲 オ 共有
 ◎ 重点的に指導する事項 ○ 関連して指導する事項 ◇ 既習事項として確認や復習をする事項

(2) 第1学年「読むこと」に重点をおいた国語科年間指導計画の例

観点	指導事項	学習目標	学習活動	学習内容 主として「読むこと」	教材 ○数字は実施時間	留意すべき事項 (5つの視点)
構造と内容の把握	ア	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる文に着目し、要旨を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題提起の文を見つけ、要旨をまとめる。 大段落ごとに興味ある部分を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実と意見との関係 要旨の捉え方 	<ul style="list-style-type: none"> 幻の魚は生きていた(中坊徹次)⑤ 桜守三代(鈴木嘉一)① 	田沢湖のクニマスについて書かれた新聞記事を紹介し、身近な環境問題との関連や、自分のできることにについて考える。
	イ	<ul style="list-style-type: none"> 場面や登場人物の描写に着目し、人物の気持ちの変化を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 冒頭と結末に着目し、変化を捉える。 行動や情景描写から心情を読み取る。 視点の変化による違いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情の変化の捉え方 場面の展開 情景描写 語り手の視点 	<ul style="list-style-type: none"> 花曇りの向こう(瀬尾まいこ)④ 星の花が降るころに(安東みきえ)⑤ 少年の日の思い出(ヘルマン・ヘッセ)⑦ 	<p>「社会に開かれた教育課程」の視点【3(4)】</p> <p>情景描写の変化から心情の変化を協働的な学びにより導き出す。自分で情景描写を使って心情を表現する。</p>
精査・解釈	ウ	<ul style="list-style-type: none"> 図表と文章を結び付け、筆者の考えを理解することができる。 引用を使って作品の魅力を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考察の導き出し方を捉える。 伝えたい内容に合わせて文章を引用し、紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図表の役割 引用を使った紹介の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> シカの「落ち穂拾い」(辻大和)⑤ 光る地平線(魚住直子)③ 	<p>「主體的・対話的で深い学び」の視点【3(2)】</p> <p>図表と文章から報告文を読み取り、総合的な学習の時間のレポート作成に役立てる。</p>
	エ	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割や関係に着目して文章の構成を捉えることができる。 表現の特徴を捉え、情景を想像することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割や文章の構成に着目して読む。 表現技法に着目し、読む観点をもとに情景を想像し朗読する。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割 文章の構成 表現技法や描写の効果 	<ul style="list-style-type: none"> ダイコンは大きな根?(稲垣栄洋)③ 	<p>「主體的・対話的で深い学び」の視点【3(2)】</p> <p>「説明文の書き方の工夫」について、3つの視点(題名の付け方、言葉や文末表現、説明の順序)でジグソー学習を行う。</p>
考えの形成・共有	オ	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の力を捉えて、その考えを深めることができる。 登場人物の姿から自分の見方や感じ方を見つめ直すことができる。 興味関心をもって古典の世界に触れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉のもつ力を知り、使ってみて、自分の考えをまとめる。 作品に描かれた状況を捉え、自分と重ねて考える。 古典と現代に生きる自分との繋がりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉についての考え 時代や状況の読み取り 古典と現代との繋がりや比較 	<ul style="list-style-type: none"> 空を見上げて(山中勉)② 大人になれなかった弟たちに……(米倉斉加年)④ 月に思う① 蓬萊の玉の枝④ 今に生きる言葉② 	<p>「教科等横断的」な視点【3(3)】</p> <p>中3美術で、1点透視図法や2点透視図法を使っただまし絵に取り組む。</p> <p>当時の時代背景を知らない生徒のために、太平洋戦争についての資料を準備する。写真等を活用し、視覚的にわかるようにする。また、生徒一人一人の家庭環境に配慮する。</p>
						<p>「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点【3(1)】</p>

(3) 第1学年 留意すべき事項に視点を当てた国語科年間指導計画の例 (1学期)

※道徳との関連

月	単元	教材	学習目標	学習活動
通年	漢字 知技5	漢字練習	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の学年別配当漢字と300～400字程度の常用漢字を読むことができる。 学年別配当漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 	
4	言葉に出会うために ⑧ 知技2 A 1 B 1 C 1	自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> 音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 詩の作者である生き物になったつもりで、情景を想像しながら音読する。 声の強弱、間の取り方、声の高さや調子を変えて音読する。
	書写 知技3	楷書の基本	<ul style="list-style-type: none"> 小学校で学習した楷書の基本点画の筆使いを理解して、確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介を行う。 ノートの書き方、工夫の仕方を理解する。 学校図書館の活用方法や、辞書、インターネットなどの調べ方について確認する。 学校図書館を活用し、辞書やインターネットなどを使って、身近なテーマについて調べる。 楷書の基本を練習。 身の回りの文字の書き方の工夫を発見する。前単元で学んだ詩を字形・大きさなど工夫して書く。
5	学びをひらく ⑫ 知技2 B 4 C 3	物語・小説文 「花曇りの向こう」 わかりやすく説明しよう	<ul style="list-style-type: none"> 場面の展開や登場人物の描写を読み取ることができる。 作品の展開に注意して、登場人物の気持ちの変化を捉え、題名に込められた意味を考察することができる。 作品の中における語句の意味を的確に捉え、内容を理解できる。 身近な生活の中から、伝える目的や相手を明確にして情報を集めることができる。 説明する観点を決めて情報を整理し、わかりやすい構成を考えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「僕」の気持ちが変わる様子や行動、会話を押さえて、そこに表現された気持ちを考える。 冒頭と結末の場面を比べ、「僕」の気持ちの変化が表現されている風景や物を見る。 「僕」のものの見方や感じ方などで共感できるところを話し合う。 身近な場所、思い出の場所などから、説明する題材とその情報を集める。 わかりやすく伝えるための構成を考え、短い文や言葉でメモを書く。
	漢字 知技2	漢字の組み立てと部首	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の組み立てと部首を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のイラストを基に、漢字の組み立てを考察する。
	評価	中間テストとその反省	<ul style="list-style-type: none"> 考え方を確かめ、自分の学習について振り返ることができる。 	
6	書写 知技4 新しい視点へ ⑬ 知技3 A 3 B 1 C 5	漢字仮名交じり文の楷書 「ちょっと立ち止まって」 他1編 「私たちの町」を紹介しよう スピーチをする	<ul style="list-style-type: none"> 楷書と仮名の調和を考えて書くことができる。 身近なものについて説明された文章を読み、文章の中で使われている言葉の意味や内容を捉えることができる。 文章と図の関連や段落と段落の関係に注意して文章の構成を捉えることができる。 筆者の考えを基に、自分のものの見方や考え方を広げることができる。 文脈における語句の意味を的確に捉えることができる。 自分の伝えたいことを整理し、相手の反応を踏まえながら紹介することができる。 声の大きさや速さなど、話し方を意識して聞き手にわかりやすい紹介をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの文字を点検し、直す。 作品を通読し、初め、中、最後をノートにまとめる。 各段落の中心となる語句を20字程度でまとめる。 段落がどのような役割をもっているのか考える。 筆者は、わかりやすく説明するためにどのような工夫をしているか、考えたことを話し合う。 図との対応に注意しながら、全文を通読する。 本文を3つのまとまりに分け、それぞれのまとまりの内容を捉える。 本論、結論、3つに分けてまとめる。 文章 聞き手がわかりやすいように、話の構成や順序を考える。 聞き手の反応を見ながら発表する。 話し手がいちばん伝えたいことを考えながら、発表する。
7	評価 ⑨ 文法 知技2 情報の集め方を知ろう 知技2 C 4	期末テストとその反省 言葉の単位 本から情報を集める インターネットを利用する 新聞の紙面構成の特徴を知る	<ul style="list-style-type: none"> 「特別な支援を必要とするなど課題のある生徒への指導」の視点【3(1)】実際に新聞記事を用意するなどの工夫をしましょう 	<ul style="list-style-type: none"> どのような情報の集め方があるのか考える。 検索のしかたや情報源の明記について確認する。 録音や撮影のしかたを確認する。 見出しやリード文などの効果について考える。

【知識及び技能】は【思考力、判断力、表現力等】の指導を通して行うことを基本としましょう

学校図書館や情報機器を活用した学習活動計画を立てましょう

小学校での既習事項を生かした目標を立てましょう

「主体的・対話的で深い学び」の視点【3(2)】筆者の説明の工夫について、お互い考えたことを表現し合い、自分の考えを深める学習活動例

各領域等の指導の配当時間を下回らないように注意しましょう

具体的な言語活動例「～分間スピーチをする」

「特別な支援を必要とするなど課題のある生徒への指導」の視点【3(1)】実際に新聞記事を用意するなどの工夫をしましょう

具体的な言語活動例「複数の資料から情報を得て、必要に応じて取捨選択をする」

学習内容	指導事項・言語活動例				評価規準	時数	
	知技	思、判、表				計画	実施
		A	B	C			
・小学校配当漢字の読み 常用漢字の読み 新出漢字の読み書き	(1)イ				知技 小学校の学年別配当漢字、常用漢字400字程度を読んでいる。 学年別配当漢字900字程度を文章の中で	5	
・授業の約束、学習の進め方 ・言葉の学びへの思い、考え ・音読の工夫 ・詩の技法	小56 (1)ケ			小56 (1)オ 小56 (2)イ	必要に応じて、各学年の内容の弾力的な指導も考えましょう りの考えをまとめている。	2	
・辞書の使い方の確認 ・図書館の利用の仕方、約束 ・効果的な発表の仕方 ・意見の交流					知技 語彙に関心を持ち、わからない語や注意したい語を調べている。 A 聞き手を意識して、話し方に気をつけながら話している。 B 集めた情報を整理して記録している。	3	
・硬筆毛筆基本の点画 ・字形、文字の大きさ、配列、書き方、筆記用具や道具の工夫、身の回りの文字の工夫発見 ・意見の交流	(3)エ (7)				知技 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解し、楷書で書いている。身の回りの文字の書き方の工夫を見つけている。	3	
・内容把握 行動描写、心情描写、情景描写、場面変化、登場人物像、擬音語擬態語 ※(例)友情、信頼	(1)ウ			(1)イ (1)オ (2)イ	知技 登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して作品を読み進めている。 C 情景描写に着目し、登場人物の変化を捉えている。	4	
・題材集め、情報収集 ・構成メモのまとめ方 ・意見の交流				(1)ア (1)イ (2)イ	B 身近な生活の中から目的や相手に応じた情報を集め、観点を決めて整理してわかりやすい文章を書いている。	5	
・漢字の組み立て、部首 ・辞書の使い方の確認	(1)イ				知技 漢字の組み立てと部首について理解し、既習の漢字を調べている。	2	
・4、5月の既習事項					考えるポイントを確かめ、自分の学習について見直している。	1	
・硬筆、楷書、字形、文字の大きさ、配列 ・日常のノートや学級日誌などの文字の改善	(3)エ (7)				知技 漢字仮名交じり文を、字形、大きさ、配列などに注意して書いている。 日常の文字を改善している。	4	
・キーワード、キーセンテンス、要点 ・段落相互の関係 ・筆者の工夫 文章構成、書き出し、接続の言葉、具体例の示し方	(2)ア			(1)ア (1)エ (2)ア	知技 段落の役割を考える際に、文と文、段落と段落を接続する語句に着目している。 C それぞれの段落の中心となる内容を要約している。 C 問題提起の段落や、根拠を述べている段落など、段落の役割の違いに気付き、筆者の工夫を理解している。	4	
・図、写真の読み方 ・指示する語句	(1)エ (2)ア			(1)オ (2)ア	知技 文章と図の関連や段落の効果を捉えて、内容を理解している。 C 筆者の考えを基に、自分のものの見方や	4	
・スピーチの方法 ・発表会（地域の方を招いて） ・意見の交流	(1)ア	(1)ウ (2)ア			知技 相手が聞き取りやすいように話す速さや声の大きさなどを工夫している。 A 自分の思いや考えを、聞き手に伝わるよ	4	
・1学期の既習事項					「社会に開かれた教育課程」の視点【3(4)】 地域の方に自分の考えを伝えるといった学習を意図的に取り入れましょう	1	
・言葉の単位	(1)エ				知技 文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて整理した内容を理解している。	2	
・情報の収集、選択、整理、表現 ・記録カードの作り方 ・インターネットの利用方法 ・意見の交流	(3)オ			(1)ア (2)ウ	知技 本やインターネット、新聞における事象や行為などを表す多様な語句について理解している。 C 本やインターネットを用いて情報を集めて読み取り、テーマに対して必要な情報を選択している。	6	

何を学ぶのか、内容をしっかり押さえましょう

**「道徳教育の充実」の視点【3(5)】
道徳教育の全体計画との関連に配慮しましょう**

学習したことを日常の場面に生かすことを意識させましょう

**「教科等横断的」な視点【3(3)】
他教科〈美術〉の学習に結び付くよう指導の時期を工夫しましょう**

**「社会に開かれた教育課程」の視点【3(4)】
地域の方に自分の考えを伝えるといった学習を意図的に取り入れましょう**